

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが砂や水の感触を楽しんだり、水と砂が混ざって感触が変化していく様子、形が変化する面白さ等を感じたり、たくさんの発見できるように、このテーマにした。全身を使って、思いきり遊べるよう環境を整え、大人や友達との関わりがどう広がっていくかも大切に見ていく。

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園

活動日時：令和7年11月5日 晴れ
クラス名：ひよこ組（0歳児クラス）
りす組（1歳児クラス）

＜活動スケジュール＞

1年を通して砂水遊びを継続的に取り組んでいる。
この日は園庭に出て午前中の時間、遊びを展開しながら砂遊びを行った。

＜活動のために準備した素材や道具＞

砂・水・スコップ・バケツ・板 等

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

午前中に園庭遊びを行った。子どもたちは、砂の量が増えていることにすぐに気付き、目を輝かせて園庭へ飛び出して行った。裸足で園庭に出る事で、足裏に伝わるふかふかした心地よさを感じ、足踏みして感触を楽しむ姿も見られた。

保育者がシャベルで砂山を高く積み上げると、子どもたちは嬉しそうに登ったり降りたりを繰り返していた。高い砂山に滑ってなかなか登れない子も、友だちが上まで登る様子を見て体の使い方を真似てし、少しずつ挑戦していた。バランスを取りながら立ち上がり、周囲を見渡して「おーい!」「みてー!」と嬉しそうに声をかける姿があった。

砂山遊びの他にも、ままごとのお椀やしゃもじで砂をすくったり、水道から水を汲んで乾いた砂にかけるなど、泥遊びも広がった。泥水遊びは、時間が経つにつれ、水が温まり気持ち良くなったのか、手や足でとろとろとした泥水の感触を楽しむ姿も見られた。

子どもの様子から遊びがさらに発展するよう、保育者は砂山の斜面や山頂にタイヤを置いたり、細い丸太の棒を刺すなど環境を整えた。また、水を使う姿が多かったため、水を溜められるタライを用意した。すると子どもたちは環境の変化にすぐ気付き、タイヤを置いた斜面やゴムの滑り止めシートを敷いた斜面に登り降りしたり、砂山の上にある丸太の棒を目指して登るなど、より遊びが広がっていった。



○振り返り

- ・園庭に砂を増やしたがその変化に子どもたちはすぐに気付き、いつも以上に意欲的に園庭遊びを始めていた。
- ・これまでよりも大きな砂山を作ることで、子どもたちは目を輝かせて登り降りを楽しんでいた。砂山の上からの景色が新鮮だったようで、普段は見えない遠くの景色に気付き、嬉しそうに声を上げる姿が見られた。また、登り降りの様子を見て、滑り止めのゴムシートやタイヤを配置したところ、子どもたちの“やってみよう”“遊んでみたい”という意欲を引き出したように感じた。園庭遊びは日々の繰り返しの中で変化が少なくなりやすいため、今後も様々な材料や設定を工夫し、意欲が育つ環境作りを続けていきたい。
- ・砂水遊びでは、サラサラ・ドロドロといった質感の違いや、透明な水が徐々に濁っていく様子など、変化を楽しむ姿が多く見られた。これまでも砂水遊びは好きな活動だったが、砂の量が増えたことで、よりワクワクした気持ちで遊ぶ姿が見られた。更に、水道の水は冷たく、地面に溜まった泥水は温かいと気付いていたようだった。

子どもたちが環境の変化に気づいたり、素材にじっくり触れながら遊びを深めていく姿が多く見られた。砂の量や遊び方が少し変わるだけで、子どもたちの興味や関わり方が大きく広がることを改めて感じた。今後も子どもたちが心地よく過ごしたり、自分なりに遊びを見つけて楽しめるよう、環境作りを大切にしながら保育を進めていく。